

様式 4

令和 6 年 1 月 2 3 日

豊田市長 太田 稔彦 様

竜神地域会議
会長 近藤 剛司

答 申 書

地方自治法（昭和22年法律第67号）第202条の7第2項の規定に基づき諮問を受けたことについて、下記のとおり答申します。

記

1 諮問内容

第9次豊田市総合計画に掲げる本市のまちづくりの方向性である「(仮称)ミライ構想」のめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造について

2 答申内容

別紙のとおり答申します。

◀竜神地域について▶

竜神地域は、第8次豊田市総合計画で「市街地ゾーン」と「都市・田園ゾーン」に位置付けられており、北東部に位置する旧豊田市地区（土橋・緑ヶ丘・東田自治区）と、昭和40年に合併した中央部から南部に位置する旧高岡町地区（竹上・竹中・竹下・本町・西田町自治区）から成り立っています。旧豊田市地区は市街化が進み、名鉄土橋駅周辺では土地区画整理事業が施行中です。

旧高岡町地区は良好な農地が広がっており、防災上の観点から改修工事の行われている逢妻男川のほか、枝下中用水緑道、竹村新池公園などの住民が身近に接することのできる自然も多い地域です。

また、直近の市民意識調査において、『地域に長く住み続けたい』と思う地域住民の割合が市内平均より高く、「住みやすい地域」と認識されているものの、地域の交通事故発生件数は、総件数、場所別件数ともに、平成29年度から市内ワースト1となっており、交通安全に対する地域住民の課題認識は非常に高い状況です。

こうした背景・課題等を踏まえ、令和5年6月に「地域と市との共働による交通安全対策の強化・促進」について市へ提言しました。

◀答申内容▶

竜神地域会議では、「第9次豊田市総合計画の（仮）ミライ構想」におけるめざす姿やまちづくりの基本的な考え方、都市構造について、グループワークを中心に協議を行いました。主な意見については以下のとおりです。

（1）全体共通の意見

①表現・言い回し等に関すること

日常生活ではあまり使わない言葉や、言い回しに馴染みがないものが多く、市民に理解されにくい。こうした計画こそ「市民目線」が大切であり、わかりやすく、親しみやすい（理解しやすい）表現にする必要がある。

②過去の総合計画の成果と9次総合計画のミライ構想へのつながり

特に8次総合計画における成果や残された課題の分析、新たな課題（コロナ禍を経て見えた課題など）への考え方などが示されないまま、9次総合計画の方向性を示された印象を受ける。過去の総合計画の分析結果や新たに見えた課題等を整理し、「9次総合計画のミライ構想」へのつながりを明確にする必要がある。

③具体性について

全体的に表現が抽象的過ぎるので、もう少し具体的な目標値・目標レベル等を示すべきである。また、「足し算にかけ算」など、資料を読むだけでは具体的にイメージすることが難しい内容が多く見受けられる。解説がなければわからない資料では、広く市民に理解してもらおう・意識（イメージ）してもらおうことは難しい。

(2) めざす姿について

①良いと感じた点

- ・「継承」に書いてあることはすべて共通しており、一貫性がある。様々なライフスタイルが受け入れられることはこれからの時代に重要である。
- ・「つながり」の重視、「次代を担う子どもたちに継承する」視点は大切である。

②より良くするため（なると思われる）には

- ・なぜ「つながり」が少なくなっているのか理由を考え、「つながり」とは何をどうするのかを具体的に提示してはどうか。また、世代を超えた「つながり」をどうすれば維持できるのか提案できると良い。
- ・「認め合い・気づき・学び合い」に「行動」を追加し、一歩踏み出せるような表現にしてはどうか。
- ・「住みたい街・安全安心の街」をめざす等、具体的でわかりやすい文章を追加してはどうか。
- ・豊田市は県内でも交通事故による死者数が多く、毎年のように「交通死亡事故多発非常事態宣言」が発令されている。竜神地域においても交通事故多発による安全意識の高まり、安全施設や対策施策への要望が多い。このような状況下で、豊田市のミライの項目に安全都市（交通含め）への施策や展望項目が見当たらないので、その視点を追加してはどうか。

(3) まちづくりの基本的な考え方について

①良いと感じた点

- ・目まぐるしく環境が変わっていく時代なので、3つの「変える」を常に意識するような視点をもつことは、良いと思う。
- ・SDGsの観点からも「あるものを生かす」という視点は、非常に重要である。

②より良くするため（なると思われる）には

- ・「多様な主体」とあるが、民間が行政とバランスを取りながら主体となっていくという認識で良いのか。現在の言い回しでは、行政が何もやらないという印象が強いので、「民間と協力して」等、表現を改めた方が良い。
- ・3つの「変える」を「替える」「換える」「代える」という表現にすると、何を変えるのかがわかりやすく、より伝わりやすいのではないか。
- ・「次代を担う子どもたちに継承する」ことをめざしているので、子育てしやすい街づくりという考え方を追加してはどうか。
- ・「あるものを生かす」を「あるものを活用する」という表現にした方がイメージしやすいのではないか。

③その他

- ・めざす姿からまちづくりの基本的な考え方への流れがわからない。
- ・「あるものを生かす」には、実施候補を模索して市民へ問うことが必要である。考え方を変えるには、根拠を示す必要がある。
- ・つながる街づくりのためには、行きたいところへ移動するための手段や方法が必要である。それがあって初めて、世代を超えて楽しく集える場所作りができる。

（４）都市構造について

①良いと感じた点

- ・人生100年時代を見据えた豊田市の未来を考えるにあたり、最も重要なことは「交通ネットワークの強化」だと思ふ。豊田市の中心（拠点）からいろいろな方面に行きやすくする「交通ネットワークの強化」は非常に良い。ただ、「交通ネットワーク」といっても電車やバスなど様々な交通手段があるので、今後、総合計画に記載していく際には、何をどうするかを具体的に記載していくことを検討したほうが良い。
- ・すべてを一局集中するのではなく、分散化するというのは市域の広い豊田市では重要である。市の中心から副の中心（拠点）を決め、市の中心まで行かなくても楽にいろいろな方面に行けるようになると良いのではないか。

②より良くするため（なると思われる）には

- ・高齢化に向け、高齢者でも気軽に出かけられる交通手段を明確にし、モデルケースを提示できると良い。

- ・「コンパクト+ネットワーク」は全体としてイメージがわかりやすい。一方で、イメージがわからないという声もある。そのため、実際の計画では具体例を活用するなど、より市民にわかりやすい表現を期待する。

③その他

- ・四郷や浄水など、豊田市北部はショッピングエリアが増え、開発が進んでいるような印象を受けるが、南部は区画整理はされてもお店が増えることもなく、取り残されている印象を受ける。特に竹村駅は長年変化もなく古いままで、駅前の通りも閑散としている。雨天時は送迎車の往来は多いが道が狭く危険であり、夜間は治安の面でも不安を感じる。竹村駅が変化しない限り、この都市構造を実現することは難しい。
- ・市内の拠点間の移動に関する様々な移動手段を構築するには、地域タクシーや相乗りを活用できると良い。ただ、事故が起きてしまった場合の補償の問題など課題も多い。コロナ禍で離職したタクシーやバスの運転手を巻き込むなど、様々な人が参加した良い仕組みを構築できると良い。

«さいごに»

第9次豊田市総合計画の諮問を受け、竜神地域では、特に今後の課題となってくるであろう「つながり」の重視と、今後ますます進む高齢化を見据えた「都市構造」を中心に活発な意見交換が行われました。先述の意見を第9次豊田市総合計画の方向性に生かしていただけるよう、答申します。